

## 国際的な視野で放射線災害復興を推進する人材を目指す

### 実践力を身に付けることができるプログラム



松本 千香  
放射能社会復興  
コース(2年生)

東日本大震災からまもなく5年が経過しようとしています。震災発生当時、私は広島の人道支援機関で働いておりました。周囲の人た

ちが支援活動のために東北へ行く中、私自身は現地で活動できる能力がなかったため支援に携わる機会がなく、毎日もどかしさを感じていました。そんな時に出会ったのが本プログラムです。プログラムの一番の特色は、分野横断的なカリキュラム設定と、国際的な点です。プログラムで開講される講義やイベントは実践的なものが多く、福島県でのフィールドワークも度々開催されています。ま

た、広島大学だけではなく、県外や海外の放射線や災害に関するエキスパートからご教授いただける機会が多いのも大きな特色のひとつです。現在、私は、社会心理学の観点から災害時の動物救援に関する研究をしています。将来は、もし災害が起こった場合、自身の研究分野からだけではなく、様々な視点からの実践的な貢献ができればと考えています。

### プログラム担当者

■プログラム責任者: 神谷 研二 広島大学 副学長(復興支援・被ばく医療担当) ■プログラムコーディネーター: 小林 正夫 医歯薬保健学研究院

### 放射線災害医療コース

#### コースリーダー

松浦 伸也 原爆放射線医科学研究所

- 栗井 和夫 医歯薬保健学研究院
- 岡本 哲治 医歯薬保健学研究院
- 茶山 一彰 医歯薬保健学研究院
- 宿南 知佐 医歯薬保健学研究院
- 菅井 基行 医歯薬保健学研究院
- 田中 純子 医歯薬保健学研究院
- 永田 靖 医歯薬保健学研究院
- 安井 弥 医歯薬保健学研究院
- 西尾 禎治 医歯薬保健学研究院
- 志馬 伸朗 医歯薬保健学研究院
- 廣橋 伸之 医歯薬保健学研究院
- ディオン クリングウォール 医歯薬保健学研究院
- 東 幸仁 原爆放射線医科学研究所
- 本田 浩章 原爆放射線医科学研究所
- 稲葉 俊哉 原爆放射線医科学研究所
- 瀧原 義宏 原爆放射線医科学研究所
- 田代 聡 原爆放射線医科学研究所
- 大津 留晶 福島県立医科大学
- 坂井 晃 福島県立医科大学
- 谷川 攻一 福島県立医科大学
- 安村 誠司 福島県立医科大学
- 細井 義夫 東北大学
- 高村 昇 長崎大学
- 島田 義也 国立研究開発法人 放射線医学総合研究所
- 小笹 晃太郎 公益財団法人放射線影響研究所

### 放射能環境保全コース

#### コースリーダー

静岡 清 工学研究院

- 出口 博則 理学研究科
- 深澤 泰司 理学研究科
- 中島 覚 理学研究科
- 山本 卓 理学研究科
- 高橋 秀治 理学研究科
- 遠藤 暁 工学研究院
- 土田 孝 工学研究院
- 半井 健一郎 工学研究院
- 田中 憲一 工学研究院
- 奥田 敏統 総合科学研究科
- 山田 俊弘 総合科学研究科
- 加藤 範久 生物圏科学研究科
- 長沼 毅 生物圏科学研究科
- 渡邊 明 福島大学

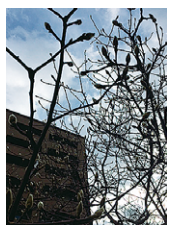
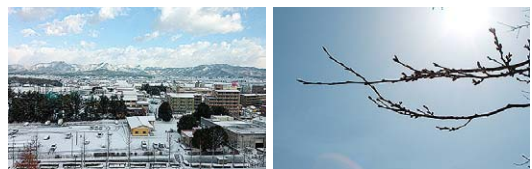
### フェニックスアドバイザー

- Rethy K. Chhem カンボジア開発資源研究所 (CDRI) 所長、広島大学客員教授
- May Abdel-Wahab 国際原子力機関 (IAEA) 保健部長、広島大学客員教授
- Gordon H. Sato 米国科学アカデミー会員、A&G製薬取締役会長、マンザナル・プロジェクト代表
- 土肥 博雄 日本赤十字社中四国ブロック血液センター所長、広島赤十字・原爆病院名誉院長、広島大学客員教授
- 及川 友好 南相馬市立総合病院副院長、広島大学客員教授

※平成28年2月時点

### 編集後記

東広島キャンパスでは、雪が積もることもありましたが、徐々に気温も上昇し、木々も芽吹いてきました。



## Phoenix Letter

- Phoenix Letter Vol.6
- 編集・発行: フェニックスリーダー育成プログラム事務局
- 住所: 〒739-8524 東広島市鏡山1-1-1 教育学研究科B棟809号
- TEL: 082-424-4689
- E-mail: phoenix-program@office.hiroshima-u.ac.jp
- Web: http://www.hiroshima-u.ac.jp/lp/program/ra/



広島大学

- 博士課程教育リーディングプログラム
- 放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム

# Phoenix Letter

Vol.6 Feb. 2016

Contents ▶ Program Member's Voice...P.1 Current Activity Report...P.2~P.3 Student's Voice and Program Member...P.4

広島大学大学院に設置された「放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム」は、平成23年度文部科学省「博士課程教育リーディングプログラム」に採択された大型教育プログラムです。放射線災害復興学は世界的にも緊急の課題とされる学問領域であり、広島大学は世界的にその先駆けとなります。



今回は、プログラム担当者の中島 覚先生に登場していただきます。



中島 覚 教授

放射能環境保全コース担当者

### 研究テーマと放射線災害復興の関係についてご説明いただけますか？

私の専門分野は化学です。その中でも「放射化学」、さらにその中でも、ガンマ線の共鳴吸収を用いた化学物質の電子状態やスピン状態などの研究を学生時代から一貫して行っています。そして、広島大学アイソトープ総合センターに所属するようになってからは、化学研究だけではなく放射線管理に携わるようになり、物理や生物の先生とも交流が始まり、環境放射能に関する研究もスタートしました。そして、このような背景があったためにこのフェニックスリーダー育成プログラムに参加することになりました。

現在4名のプログラム学生を指導していますが、学生と一緒に海洋中の放射性物質の移行についての研究、また、土壌から稲への放射性セシウムの移行についての研究、そして、除染に関する研究も進めています。

### 放射線災害復興の推進のために、どのようなリーダーが求められているのでしょうか？

例えば、自分が担当している放射能環境保全コースには物理、化学、工学、生物系といった様々なバックボーンを持つ先生方が担当者としてプログラムに参加し、それぞれの専門分野を活かして放射線災害復興を推進するためのアプローチを実践しています。環境保全に関するアプローチをとっても多くのアプローチがあります。さらに、医療系や社会科学系の専門家は、さらに別の種々のアプローチで放射線災害復興を推進しています。

2011年3月11日に生じた福島原発事故で被災された方も色々な思いをお持ちでいらっしゃると思いますが、そのような様々な思いを聞き、コミュニケーションを取り、議論しながら多岐にわたる放射線災害復興推進のためのアプローチを理解し、自身の専門性を活かしながら、最適な解決方法を探し、そして実践することができる人材がリーダーだと思います。

### 本プログラムで学ぶことにより放射線災害復興にどう貢献できるのでしょうか？

我々のプログラムは放射線災害医療コース、放射能環境保全コース、放射能社会復興コースという3つの柱から成り立っていますが、私自身は自然科学系の人間ですから、環境保全の立場からの放射線災害復興についてはすぐに理解できますし、放射線が人体に影響を与えるということも理解できるために医療系に対する理解もできます。そして、こ

のプログラムの素晴らしい点は放射能社会復興コースがあり、復興に関する社会的なアプローチについて学ぶことができる点です。私自身も勉強になっています。

プログラムに入学すると全てのコースの勉強ができますので、様々な立場からのアプローチを理解することができるという点は非常に有益です。それと同時にそれぞれのコースの専門がありますので専門性を深めることができます。

つまり、自身の専門性を深めながら、幅広く他の分野のアプローチを知ることができるこのプログラムで学ぶことにより、他の専門家のアプローチを理解しながら自分の専門性を活かしたアプローチを見つけていくことで放射線災害復興に貢献できると考えています。

### 本プログラム履修生ならびに本プログラムを志望する学生へメッセージをお願いします。

履修生はプログラムの授業を受けながら並行して研究科に所属して研究を行い、博士の学位を取得します。例えば化学の分野であれば、非常に専門的な研究を進める必要性があります。つまり、専門を極めると同時に広い学際的な領域を勉強しなければならないという一見矛盾していて、かつ、タフなプログラムではありますが、是非どちらもクリアして欲しいと思います。そして修了後には、自分自身の専門というバックボーンを活かしながら他の様々な分野の専門家と議論し協力して放射線災害復興を世界的にリードすることができる人材となって欲しいと考えています。



10月～	セメスター開始
10月1日	第4期生 開講式・ガイダンスを実施
10月11日～12日	第2回異分野交流フォーラムを実施
10月16日～17日	第10回ショートフィールドビジットを実施
10月20日～22日	短期フィールドワーク報告会を実施
10月24日・25日	博士課程教育リーディングプログラムフォーラム2015に参加
10月26日	第6回フェニックスリーダー育成プログラムセミナーを実施
11月1日	未来博士3分間コンペティション2015を共催
11月2日	短期インターンシップ報告会を実施
11月6日	第4回大学院生連絡会、キャリアポートフォリオ説明会を実施
11月12日	平成27年度第2回フェニックスリーダーシップセミナーを実施
11月18日	第2回ランチミーティングを実施
11月	入試説明会を実施 ・19日：東広島キャンパス ・20日：霞キャンパス ・26日：福島会場 ・28日：東千田キャンパス
12月3日	第7回教育セミナーを実施
12月5日～6日	第11回放射線モニタリングに係る国際ワークショップに参加(株千代田テクノル主催)
12月22日～1月7日	平成28年度10月入学 出願期間
1月8日～9日	第6回リトリート、第5回教員学生意見交換会を実施
1月12日	第7回フェニックスリーダー育成プログラムセミナーを実施
1月18日	第8回フェニックスリーダー育成プログラムセミナーを実施
1月21日	第9回フェニックスリーダー育成プログラムセミナーを実施

## 10月1日 第4期生 開講式・ガイダンスを実施

広島大学大学院博士課程リーダー育成プログラムでは、「放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム」と「たおやかで平和な共生社会創生プログラム」の両プログラムが合同で開講式を行い、本プログラムでは4人の新生を迎えました。



越智学長は式辞の中で、「これから5年間の一貫教育で、グローバルリーダーとして国際的に活躍できるよう学業に励んでください。」と、激励の言葉を贈りました。

開講式の後には、ガイダンスを行い、プログラム責任者からの歓迎の言葉、新生の自己紹介に続き、履修における諸連絡等を行いました。



## 10月16日～17日 第10回ショートフィールドビジットを実施

本プログラム入学早期に、放射線災害の現実を知り、分野横断型アプローチの重要性を実感することを目的として実施した第10回ショートフィールドビジットは、16日の夕方に参加者全員が福島に集まり、事前学習のためのオリエンテーションを行いました。

17日には、はじめに飯館村で除染現場や仮設置場等を見学し、相馬港では東日本大震災による津波被害からの復旧と更なる発展に向けての事業について見学しました。午後からは南相馬市立総合病院において、震災直後から現在までの南相馬市の医療面での現状や課題等について学習するとともに、ホールボディカウンタを用いた内部被ばく検査現場を見学しました。その後、太田川河口では、津波被害の影響等を見学しました。



行程終了後には振り返りを行い、学生からは、「福島県に来たことはあったけれども、いまだに残る津波被害の現状や放射線の線量等について初めて自分の目で見る機会を得て有益だった。」「前日のオリエンテーションで、1年前や2年前の写真を見たうえで行程に参加したことで、以前の状況と現状を比較することが出来た。」などのコメントがありました。

2日間の見学等を通して、放射線災害復興におけるグローバルリーダーを目指すためには分野横断的学習が重要であることを改めて認識し、プログラム新生にとって非常に貴重な機会となりました。

## 10月26日 第6回フェニックスリーダー育成プログラムセミナーを実施

学生が幅広い知識を習得するための「分野融合セミナー」の一環として、広島大学大学院国際協力研究科と協定校のテキサス大学オースティン校 The LBJ School of Public Affairs より支援を受け、7月6日～8月5日までの夏期研修(2015 Public Management and Leadership Programおよび2015 Politics and Policy Program)に、たおやかプログラムの教職員とともに当プログラム所属学生が1名参加し、広島大学より合計4名が参加しました。

そして、10月26日のフェニックスプログラムとたおやかプログラムが共催した今回のセミナーでは、研修参加者の一人であるDr. Luni Piyaによる講義に続き、3名の研修参加者がそれぞれ学んだ内容を報告し、研修の成果をプログラム所属学生と共有しました。

なお、当日は広島市と東広島市のキャンパスをテレビ会議システムで結び、フェニックスプログラム所属学生8名、たおやかプログラム14名、その他学生8名、教職員10名の計40名が参加しました。



東広島キャンパスのセミナー風景



霞キャンパスからもテレビ会議を通じてセミナーに参加

## 11月12日 平成27年度第2回フェニックスリーダーシップセミナーを実施

学生が修了後の進路を検討するうえで参考にしてもらうためにさまざまな分野のリーダーを講師に迎えリーダーシップセミナーを開催しています。

今回は、国際原子力機関(IAEA) Division of Human Healthの部門長であるDr. May Abdel-Wahabを招いて「国際機関で求められるリーダーシップ」と題して開催しました。

講師の医師・研究者としての経験から、研究者としての心構えやリーダーの人材像について、参加者とのインタラクティブな議論が行われました。国際機関での業務については、多様な背景と専門性を持つチームで合意形成することの難しさがある一方で、科学者として政策決定に関わる等、臨床医と比較すればより多くの人に影響を与えることができることや、職場としてはトレーニングや待遇も充実しており、女性もリーダーとして働きやすい環境であることなど説明がありました。

これまで当プログラムからは8名の学生がIAEAで短期または長期のインターンシップを実施しており、今後の実施を希望している学生も熱心に議論に参加しました。参加者からは幅広い内容の情報を得ることができた、また、他の参加者の意見を聞くことができてよかったという意見が聞かれました。



## 1月8日～9日 第6回リトリート、第5回教員学生意見交換会を実施

プログラム学生、教職員の合計38名が参加して、寝食を共にしながら、学際的な広い視野でこれまでの学修の成果及び今後の課題を確認する第6回リトリートを広島市国際交流会館において開催しました。

はじめに出口博則学生生活委員会委員長から開会挨拶があり、その後5グループに分かれて、2月に開催予定の国際シンポジウムのテーマやパネルディスカッションについて議論しました。

2日目には、前日の議論に基づき各グループでまとめた内容を発表し、専門分野や学年が異なるプログラム学生が意見を交換し共同作業する機会となりました。その後、第5回学生教員意見交換会を開催し、活発な意見交換を行いました。

最後に神谷研二プログラム責任者から、「今回のリトリートは学生にとってグローバルリーダーとしての発信力を向上させる良い機会となった。」と挨拶がありました。



会場の様子



グループ討論



集合写真

## 1月18日 第8回フェニックスリーダー育成プログラムセミナーを実施

講師として福島県立医科大学災害こころの医学講座の前田正浩教授をお迎えし、第8回フェニックスリーダー育成プログラムセミナー「放射線災害時におけるCrisis Communicationとメンタルヘルス」を開催しました。

本セミナーは、プログラムの授業科目等を広島大学内へ公開することにより、本プログラムの取組みを広く周知理解を深めてもらうことを目的として開催しています。

会場にはプログラム履修学生はもちろん、プログラム外からの参加もあり、約20名が参加し活気にあふれたセミナーとなりました。

セミナーでは前田先生から、放射線災害発生後の住民や医療関係者等における、不安や恐怖心に対する研究の知見について、また、被災者に対するアンケート調査の結果等について説明がありました。質疑応答では、「阪神淡路大震災発生後と今回の福島事故後のメンタルヘルス状況の違い」等について議論が行われる場面もあり、参加者にとって非常に充実したセミナーとなりました。

